NIKKEI Network
ニッケイ・ネットワーク
海外日系人協会だより
2019
NO.43
DEC.

第60回海外日系人大会

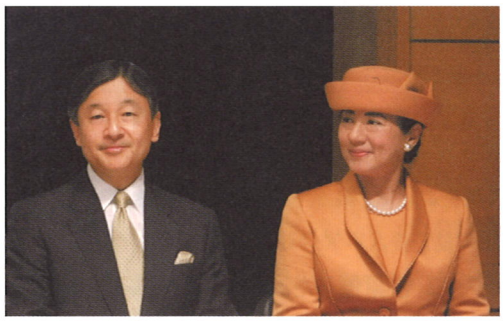
～大会60回の歴史を振り返り、新たな時代の在り方を考える～
天皇皇后両陛下ご臨席のもと記念式典を開催

19カ国より約200名が参加

記念式典で挨拶をする飯泉会長

当協会は10月1日～3日の3日間、新たな元号の下では初の、そして第60回の節目となる記念すべき海外日系人大会を、東京都の憲政記念館他にて開催した。10月1日に行われた記念式典には、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、19カ国より約200名の海外参加者に加え、国内関係機関・団体・個人等合わせて約400名が出席した。

海外日系人から寄せられたビデオ・メッセージ
天皇皇后両陛下も笑顔で御覧に


記念式典は天皇皇后両陛下をお迎えし、和やかな雰囲気のなか開催された

午後3時30分、憲政記念館講堂に天皇皇后両陛下がご入場になると、静まり返っていた会場にはご即位を祝う気持ちの込もった盛大な拍手が鳴り響いた。主催者挨拶に立った飯泉嘉門当協会会長（全国知事会会長・徳島県知事）は、今大会の総合テーマである「令和の日本と国際化の架け橋・日系社会」の主旨について触れ、国内・海外双方の日系社会が日本の内なる国際化の「橋渡し」の役割を期待されているとし、今大会をその連携と協力の方途について考える機会としたい、と述べた。

天皇陛下はおことばの中で、海外日系人大会がそもそも、敗戦後の日本に温かい支援を差し伸べた海外在住の日本人・日系人への感謝を示すために開催されたものだったことに触れられ、その後の阪神・淡路大震災や東日本大震災等、日本が大きな困難にあうたびに世界中の日系の人々から温かい支援を受けてきたことに対しても、改めて感謝の意を述べられた。また、在日日系社会の存在についても触れられ、その30余年にわたる経験について「今後様々な文化を受け入れながら発展していこうとする日本社会の貴重な参考になるものと考えます」と述べられた。

安倍晋三内閣総理大臣の祝辞を西村明宏内閣官房副長官が代読した後、司会を務めるハワイの富田いく子さん（当協会理事）が参加19カ国の国名を読み上げると、参加者はそれぞれの居住国の国旗を振って盛大にアピール。海外参加者を代表して、ブラジル日本文化福祉協会の石川レナト会長が挨拶を述べた。

その後、天皇皇后両陛下は壇上から会場内の座席へと移動され、60回大会に向けて海外各地から寄せられたビデオ・メッセージを参加者と一緒にご覧になられた。ビデオの前半では、1957年に「国連加盟記念・海外日系人親睦大会」からはじまった大会60回の歴史を写真と共に振り返った。1974年の第15回大会に、上皇上皇后両陛下が皇太子同妃両殿下としてご臨席された際のお写真がスクリーンに映し出されると、会場からは驚きと懐かしさを合わせたような歓声が上がった。海外からは、ペルー、ブラジル、パラグアイ、ボリビア、カナダ、アメリカ、フィリピン、メキシコの各国から、様々な世代の日系人が日系社会の現在の様子やそれぞれの活動について紹介するとともに、海外日系人大会への想いや参加日系人へのメッセージ、新時代へのお祝いの言葉などを寄せた。

記念式典終了後、天皇皇后両陛下は別室へ移動され、参加19カ国21地域および在日日系社会代表を含む22名の代表者と親しくご懇談された。

引き続き、講堂ではアンジェロ・イシ武蔵大学教授（当協会理事）が「在日日系30年の歩みと日本の“多文化共生社会”」をテーマに基調講演を行った（詳細は2面）。17時30分からは会場を移して参加者歓迎交流会が行われ、海外参加者・国内招待者が共に親睦を深めた。

大会2日目の夕刻には外務省飯倉公館において茂木敏充外務大臣主催歓迎レセプション、3日目には憲政記念館にて衆参両議院議長主催昼食会も開催され、参加者は国会議員らと親しく懇談した。

大会2日目の外務大臣主催レセプションにて。留学生や研修員らも参加し親睦を深めた

大会初日・基調講演

在日日系30年の歩みと日本の"多文化共生社会"

武蔵大学教授　アンジェロ・イシ

アンジェロ・イシ武蔵大学教授による基調講演

初日に行われた基調講演では、在日日系30年の歩みとその存在意義について、サンパウロ生まれの日系ブラジル三世で、武蔵大学のアンジェロ・イシ教授が、ブラジル人の事例を中心に話した。

自らを「在日ブラジル人一世」と名乗るイシ教授は、入管法が改正された1990年に日本に留学、その後ほぼ30年間にわたって南米系日系人の日本におけるコミュニティ形成や文化活動を研究してきた。

講演ではまず、デカセギ移民現象の30年史を、①「Uターン」から「出稼ぎ」へ（1990年以前）②「出稼ぎ」から「デカセギ」へ（1990年代）③「デカセギ」から「定住」（在日日系人）へ（2000年代）④「定住」（在日日系人）から「世界における在外市民の一員」へ（2010年代）、という4つの期間に区分し、それぞれの特徴や象徴する出来事、日系社会の変遷等について振り返った。

どこかマイナスのイメージを含み、残業・貯蓄・送金が主目的だった出稼ぎという言葉がブラジル社会でも「認知」され「デカセギ」として定着した時代から、日本でのマイホーム購入・定住志向への転換後、リーマンショックによる大量の雇い止め、失業・帰国。そして東日本大震災での復興支援活動などを経て、在日ブラジル人コミュニティの意識がどのように変化していったのかについて概観した。2015年に在京ブラジル総領事館主催の市民代表者会議は、横浜市鶴見区で開かれた総会で「横浜宣言」を採択。「デカセギの時代は終焉した。私たちは此処に居ることを選んだ」と、在日日系社会が「デカセギ」という言葉との決別を公に宣言したことにも触れ、画期的な出来事だったと振り返った。

また、忘れてはならない出来事として、日本人少年による集団暴行によって当時14歳だった愛知県の日系ブラジル人少年が亡くなった「エルクラノ事件」についても言及し、在日日系人の子どもたちがおかれている状況や教育問題の重要性についても改めて触れた。

痛ましい事件の一方で、工場などで働きながら通信教育でブラジルの大学を卒業した在日の子ども達や、難関である弁護士資格の国家試験に合格した日系人など、「高度人材」「グローバル人材」と呼ぶにふさわしい若者たちの出現についても紹介し、「南米と日本をまたにかけるトランスナショナルな人の移動については、問題点や課題ばかりが強調されがちだが、様々な可能性が生まれていることにもっと気付いてほしい」と訴えた。

令和という新たな時代において、コミュニケーション手段の発達と共に軽やかなフットワークで自由に活躍する若い日系人たちにとって、暮らしている場所が日本なのかあるいは海外のどこかなのかは、数十年前と比べるとそれほど重要な意味をもたなくなってきている、とイシ教授は指摘する。どこにいようが「架け橋」的な活動が可能な時代に私たちは生きており、現在進行形で日本に暮らす在日日系人も、かつて日本に滞在した経験を持つ「元」在日日系人も、無限の可能性を秘めた存在であると結んだ。

大会2日目・国際シンポジウム

3つのパネル・ディスカッションと中南米日系社会実相調査報告

10月2日は、会場を東京都新宿区のJICA市ヶ谷ビルに移し、10時より国際シンポジウムを開催した。3つのパネル・ディスカッション、および外務省が実施した「中南米日系社会実相調査」の報告について紹介する。

特別セッション

「在日日系30年の経験 ー日本社会の内なる国際化を見据えて」

午前中に行った特別セッションは「在日日系30年の経験ー日本社会の内なる国際化を見据えて」と題し、堀坂浩太郎上智大学名誉教授（当協会常務理事）をモデレーターに、前日の基調講演の内容も踏まえた討議が行われた。

4名のパネリストによって発表されたそれぞれの活動や経験からは、新たな外国人材の受入にあたり在日日系30年の経験が私たちに多くの教訓を与えてくれていることが垣間見えた。モデレーターの堀坂氏は、若い世代の教育問題や新たな働き方、アイデンティティについての課題、四世の受入体制についてなど、このパネルで実にたくさんのヒントを得ることができたと述べた。

特別セッションの様子

【パネリスト（敬称略）】

・北脇　保之（学校法人浜松海の星学院理事長・当協会理事）
浜松市長だった2001年当時に外国人集住都市会議を提唱し発足させた経験等について。

・長岡　秀人（島根県出雲市市長）
南米系を中心に外国籍住民が増加している出雲市の現状と取り組みについて。

・オチャンテ・村井・ロサ・メルセデス（桃山学院教育大学講師）
デカセギ子弟として15歳の時にペルーから来日。日本で大学・大学院を卒業。在日日系子弟としての自身の体験と、現在行っている外国につながりのある子どもたちの教育問題をテーマにした研究について。

・鈴木　江理子（国士舘大学教授）
移民／外国人政策、労働政策の整備の必要性と今後の提案について。

第2セッション

「日系資料館の連携を考える－レガシーを共有するために」

午後最初のパネルは、「日系資料館の連携を考える－レガシーを共有するために」と題し、第59回大会で行われたパネルディスカッションを引き継ぐ形で各地の日系資料館関係者による討議を行った。柳田利夫慶應義塾大学名誉教授をモデレーターに、アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル、ペルーと日本から6名のパネリストが各資料館の取り組みや課題等を紹介し、日系資料館連絡協議会の設置についてや、共通テーマによる展示の実施等、その実現に向けた具体的なアイディア・提言などが出された。

ブラジル日本移民史料館の山下運営委員長からは、2020年に創立65周年を迎えるブラジル日本文化福祉協会のイベントに合わせて、2019年にリニューアルしたばかりの同史料館を各館代表者らに訪れてもらい、ブラジルで次回のシンポジウムを開催することが提案された。また、日本人メキシコ移住あかね記念館のカスガ氏からは、同記念館の運営母体である春日財団として、インターネット上に各館の情報を共有できるデジタル・プラットフォームの構築を支援することが可能であるとの申し出もあった。

【パネリスト（敬称略）】

- **シェリー・カジワラ**（カナダ日系文化センター・博物館理事）
- **熊谷　晃子**（JICA横浜 海外移住資料館館長）
- **西村　陽子**（全米日系人博物館館長代理）
- **アレハンドロ・カスガ**（日本人メキシコ移住あかね記念館）
- **アベル・フクモト**（ペルー日系人協会会長・ペルー日本人移住史料館代表）
- **山下　リジア**（ブラジル日本移民史料館運営委員長）

日系資料館セッションのパネリスト

第3セッション

「日系社会との連携を考える ーネットワークとアイデンティティを生かして」

続いて行われた「日系社会との連携を考える－ネットワークとアイデンティティを生かして」と題したパネルは、日本記者クラブ前専務理事の中井良則氏（当協会常務理事）をモデレーターに進められた。

セッションの冒頭、中井氏は会場に向けて、「共生」の反対は何だろうか？という問いを投げかけてパネルをスタートした。ビジネス、日本文化、日本語教育など異なる分野から6名のパネリストが発表し、中井氏は「ひとりひとりの生き方、経験はまったく異なるが互いに分かり合える。それが日系アイデンティティでありレガシーの共有ということなのかもしれない」と述べた。また、「共生」の反対は「排除」ではないかとも述べ、世界のあちこちで排除が起こっている現在、改めて「共生」という考え方を大切にしていきたいと感じるパネルであったと結んだ。

漫画・アニメを通じた日本文化について発表するブラジル漫画家協会の佐藤会長

パネル・ディスカッション終了後は、各セッションでの討議内容を元に5項目からなる大会宣言案を作成。採択された宣言案は、翌3日に「第60回海外日系人大会・大会宣言」として発表された。（P5に大会宣言全文掲載）

【パネリスト（敬称略）】

- **大本マイケル敏郎**（株式会社メルカリ　エンジニアリング・マネージャー）
  シリコンバレーのグローバル企業で働いてきた自身の経験や日系人の役割について。
- **アンドレ・サイトウ**（日本ブラジル架け橋プロジェクト委員）
  ブラジルの若手日系人が中心となって展開している日系レガシー共有のためのプロジェクトについて。
- **佐藤フランシスコ紀行**（ブラジル漫画家協会会長）
  漫画やアニメを通じた日本文化の普及とその魅力・効果等について。
- **ディマス・プラディ**（ジャパン・インドネシアソリューションズ代表）
  在日日系ムスリムとしての経験や新たにはじめたハラル食材販売の活動について。
- **渕上　ラファエル**（日本財団日系スカラーシップ留学生）
  東京音楽大学大学院で尺八を研究。日系コミュニティとの関わりが薄かった自身の生い立ちと尺八を通じて得た日系アイデンティティについて。
- **佐々木　倫子**（桜美林大学名誉教授・当協会理事）
  海外における継承日本語教育の現状と重要性、支援や協力・連携の必要性等について。

外務省・中南米日系社会実相調査報告 若い世代の関心・ニーズが浮き彫りに

午前中に行われた特別セッションの後に、外務省が昨年度より実施している日系社会実相調査のうち、昨年アルゼンチン、メキシコ、キューバを対象に行われた調査について、調査分析を担当した（合）イデア・ネットワーク代表の松本アルベルト氏が報告を行った。

調査では、三世、四世等若い世代がどのようなニーズ・関心を持ち活動しているのかを浮き彫りにすべく、日系アイデンティティに対する自覚、訪日経験、日本文化を知るツール、開催してほしいイベント、好きな日本の言葉等についてのアンケートを実施。調査結果から共通して読み取れた傾向として、若い世代はインターネット、漫画やアニメ、日本映画、ポップカルチャーなどの影響を大いに受けていること、日本の若者と交流する機会を求めていることに加え、SNSの普及や日本滞在経験者による帰国後の活動・広報の結果、消えかけていた小さな日系コミュニティが復活しつつあることなどが浮き彫りになったという。また、日系のイベントに参加する非日系が増えていることや、非日系人との婚姻が当たり前になってきていることなども挙げられた。特に、20～30代のデジタル世代はSNSを主なコミュニケーション手段として最大限に活用しており、フットワークが軽く目的意識が明確であることもわかった。

また、訪日経験回数と日本に対する知識や日系アイデンティティの強さとは、必ずしもイコールではなく、1カ月程度の短期間であってもJICAの日系研修や交流プログラムなどで来日することで得られる体験、他国の日系人との交流等が、日系アイデンティティの強化に大きな影響を与えていることも報告された。

外務省の佐藤悟中南米日系社会連携担当大使は、こうした調査結果を踏まえた上で現在日本政府が行っている取り組みの一部を紹介すると共に、今後も調査を継続し様々な政策を拡充していきたいと話した。

大会3日目・憲政記念館

大会3日目は、憲政記念館で「日系人の主張～令和新時代と日系人～」と題した海外参加者によるスピーチ、「在日日系人スピーチ」と題した日本で生活する若い世代の日系人による日本語スピーチ発表を行った。今大会は、はじめて3日間のプログラム全体に日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語の4カ国語同時通訳を導入したため、「日系人の主張」では英語、ポルトガル語による発表もあった。

「日系人の主張～令和新時代と日系社会」

「日系人の主張」は、5分間という限られた時間の中で、各スピーカーが思い思いのテーマで発表を行うもの。4回目の実施となった今大会では、ハワイ、ブラジル、カナダから6名のスピーカーが登壇した。カナダ日系文化センターからの提言や、ハワイで消えゆく日系墓地の保存活動、日系人を通じた地方創生プロジェクト、多文化を背景に持つ日系の子どもたちについての研究、ブラジルの若手日系人による日系レガシー共有プロジェクト等、多彩なテーマで興味深い内容の発表となった。発表者とテーマは右の通り。

「日系人の主張」スピーカーのみなさん

1.日系コミュニティの連携とさらなる発展を目指して
カナダ・日系文化会館　サンディー・チャン

2.令和―日系のお墓と共に生きる時代
ハワイ大学ヒロ校日本研究学科長　本田　正文

3.技術と運営姿勢
カナダ（バンクーバー）　板垣　仁

4.母国日本の素晴らしさを他国の言葉で大いにサポート
アメリカ（ハワイ）　小林　さち子

5.多文化時代における日系人の役割
ペルー（日本在住）　国立大学法人お茶の水女子大学国際教育センター常勤講師　松田　デレク

6.ジェネレーション・プロジェクトー日系人としての価値観を発見
ブラジル（サンパウロ）　日本ブラジル架け橋プロジェクト委員　アレシャンドレ・カワセ

「在日日系人スピーチ」

日本で暮らす若い世代の日系人による日本語スピーチ「在日日系人スピーチ」は、茨城県常総市のブラジル人学校エスコーラ・オプションから中・高校生各1名と、日本財団日系スカラーシップ及びJICA日系社会リーダー育成事業留学生として日本の大学・大学院で学ぶ2名の計4名が、「10年後の自分」をテーマに発表した。

10年後の自分はどこで何をしているだろうか?との問いにそれぞれが将来の夢を思い描き、そのために進んでいくストーリーは、同世代やさらに下の世代の日系人に勇気と希望を与えると共に、観客席の多くの参加日系人にも感動を与えた。

日本で生まれ育った在日日系ペルー四世のアサト・トレス・ルイス・アルベルトさん。自らのアイデンティティの自覚と将来の夢をしっかり見据えた現在の活動についてのスピーチに会場は大きな感動に包まれた

奥山　カイキ（ブラジル）
エスコーラ・オプション中学部3年
浜谷　ヴィニシウス（ブラジル）
エスコーラ・オプション高等部1年
マリャリ・メグミ・フェイス・パパヤ（フィリピン）
上智大学国際教養学部1年
アサト・トレス・ルイス・アルベルト（ペルー）
東京農工大学大学院修士課程1年

オープニング・イベント「第4回国際日系歌謡大会」

大会開催前の9月29日（日）には、東京・八重洲のライブレストラン「HIT STUDIO TOKYO」を会場に、第4回となる国際日系歌謡大会を開催した。今年も、審査員長にミュージカル俳優・シンガーの小西のりゆきさんをお迎えし、アメリカ、ブラジル、ペルー、アルゼンチン出身の日系人14名が歌声とパフォーマンスを競った。回を重ねるごとにレベルアップしている本大会。歌声だけでなく、その歌に込めた特別な想いやエピソードなども大会を大いに盛り上げた。

特別ゲストとして、アルゼンチン出身の歌手・大城クラウディアさんが出演し、三線弾き語りによる沖縄民謡のほか、オリジナル楽曲を披露。その圧倒的な歌唱力で観客を魅了した。

特別ゲスト・大城クラウディアさん。小さな身体からは想像できないほどのパワーあふれるステージを披露してくれた

今大会も笑いあり涙ありの大盛況だった国際日系歌謡大会。優勝の栄冠はハワイのシェリー・タムラさんが手にした

オフィシャル・ツアー 小江戸・川越の町並みを散策

10月2日、国際シンポジウムと並行して開催したオフィシャル・ツアーには、約50名が参加。蔵造りの街並みが保存され「小江戸」の名称で知られる埼玉県川越市を訪れた。

ガイドの案内で蔵造りの町並を散策

2グループに分かれた参加者は、観光ガイドによる説明を受けながら菓子屋横丁、時の鐘など蔵造りの町並みを1時間ほどかけて散策し、川越名産のサツマイモを使ったおまんじゅうやソフトクリームなど、食べ歩きも堪能した。また、天保元年に建造され約250年続く醤油の蔵元を訪れ、江戸時代から使い続けているという杉桶を使い昔ながらの手法で製造される醤油作りの様子を見学した。帰路には都庁展望台にも立ち寄り、東京の街並みを一望したほか、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにまつわる展示コーナーなども見学した。

＝第60回海外日系人大会 大会宣言＝

日系アイデンティティを活かして多文化共生に貢献します

2019年10月3日

私たち、第60回海外日系人大会（2019年10月1日～3日　東京で開催）に世界各地から参集した日系人は、『令和の日本と国際化の架け橋・日系社会』を総合テーマとして討議し、以下の5項目からなる決議を本大会の成果として宣言いたします。

1.【海外日系人大会の重要性】

海外日系人大会が節目となる第60回目を迎えました。令和初の開催となる本大会では天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、温かいお言葉を賜りました。皇室が、世界の各地に暮らす日系人にお心をお寄せくださいますことに心より感謝いたします。海外日系人大会は、私たち日系人の声を直接日本に伝える最大の機会であるとともに、日本と私たちの居住国との間の架け橋の役割を果たしてきています。海外日系人大会の更なる充実と同大会に対する日本国民の関心の更なる高まりを期待します。

2.【在日日系社会の経験】

（1）大会が60回の歴史を数える中、中南米から就業の機会を求めて来日したいわゆるデカセギ現象に始まる在日日系社会形成の歴史もおよそ30年を数え、30万人を超える日系人が居住しています。規模からいえば、ブラジル、アメリカに次ぐ世界で3番目の大きさの日系社会です。在日第一世代は、就業や子弟教育面などでの問題を抱えながらも日本の経済活動を支える一方、居住国の文化や習慣を日本に持ち込み、日本の内なる国際化・多文化共生社会の推進に寄与してきました。今、日本は少子高齢化による労働力不足を補うため、新たに外国人労働者の受け入れを進めていますが、在日日系社会と、日系人を受け入れた地域社会の30年に及ぶ貴重な経験を、政策や行政サービスに生かすよう提言します。

（2）在日日系人の第二世代では、幼少のころに来日した者も含め、異なる文化を背景に持ちながら日本で教育を受け、医師、弁護士などの専門職、起業家、研究者等多彩な人材が徐々に育ってきています。しかし、これは一部に過ぎません。子弟の教育問題、特に日本語の習得は引き続き第二世代の最大の課題です。本年6月に日本語教育推進法が施行されたことを評価し、さらに在日日系子弟の教育環境を整備していただくよう政府、地方公共団体、企業の支援を求めます。第二世代は多文化社会に対応できる人材として、地域の国際化に貢献できます。

（3）海外日系社会では4世以降の若い世代に日本で学びたい、働きたいと考える者が多数いますが、4世ビザの条件は厳しく、同ビザによる来日者数は極めて少ないのが現状です。日系4世以降の世代にも3世までの世代と同様に、日本の在留資格について特別の配慮を求めます。

3.【日系レガシーの継承と国際日系デーの展開】

昨年のハワイ大会で、私たちは、日系レガシーを誇りとし、次の日系世代や居住国の人々に伝え続けることを決議し、6月20日を国際日系デーとすることを宣言しました。これを受けて、本年、若い世代が中心となって国際日系デーを祝う催しや、日系レガシーと日系アイデンティティを再認識する行事が各国で実施されました。9月にはブラジルのサンパウロ市議会が、国際日系デーを同市の行事カレンダーに取り入れるとの決定を行いました。私たちは、日系レガシーと国際日系デーの意義を世界に訴え、世界各地の日系社会間の連携が促進されるよう努力します。

4.【日系資料館連絡協議会の設立】

世界各地にある日系資料館は、その地の日系レガシーを保存し公開する貴重な公共財です。各々の日系資料館の能力を高め、そのレガシーを世界の共有財産とするためには、日系資料館同士の情報交換と連携が必要です。私たちは日系資料館連絡協議会の設立を歓迎します。また、サンパウロのブラジル日本移民史料館で2020年にシンポジウムを開き、メキシコの春日財団がデジタル・プラットフォームの設立に協力するという提案があったことを、歓迎します。

5.【活躍するイコールパートナーへ】

日系人の家庭に育った若い世代は、日本の文化、言語や価値観を学び理解することで日系アイデンティティの確認につながっています。ITビジネス創出や伝統文化の活性化、さらに人口減少に悩む地方の再生とさまざまな分野で活動する若い在日日系人の取り組みを私たちは応援します。日系ネットワークと日本社会の連携が深まり、多文化共生社会づくりに日系人はイコールパートナーとして活躍できることを確信します。継承語として日本語を学ぶ子どもたちが日系人のアイデンティティを保つためにも、重国籍の容認に道を開くこと、彼らの継承日本語学習を支援することが重要です。

本の紹介

著:深沢 正雪
(ふかさわ まさゆき)
サンパウロ・ニッケイ新聞社編
無明舎出版発行
A5判・180頁
定価1800円+税
ISBN 978-4-89544-653-2

「移民と日本人」ブラジル移民110年の歴史から

日本人のブラジル移住111周年となった2019年6月に、サンパウロ・ニッケイ新聞社の深沢正雪編集長によって刊行された、ブラジル日本人移民史の知られざる側面を探った一冊。

現在190万人もの日系人が暮らし、世界最大の日系人コミュニティを有するブラジル。かつて日本から25万人もの移民がブラジルへ渡ったが、日本国内で教えられる日本史や、日本人の関心からはその存在が煙のように消えてしまっている。ブラジルに渡った日本人移民の歴史から学べる事は、現在の日本人が隣の外国人を理解する一歩になるはずだと著者はいう。

いまから400年以上も前に、中南米で日本人が奴隷として売買されていた事実や、隠れキリシタンたちの移住、皇籍離脱した後ブラジルに移住した明治天皇の孫・多羅間俊彦氏へのインタビューなど、興味深い内容を盛り込みながら、南米にはいつから日本人がいたのか?彼らはなぜ、どのようにして、南米にやってきたのか?そして「日本を出た日本人たち」は移住先でどんな歴史をたどったのか?を丁寧に探ったルポタージュ。

CIATE・コラボラドーレス会議開催

11月9～10日の2日間、サンパウロのCIATE(国外就労者情報援護センター・二宮正人理事長)によるコラボラドーレス会議が、ブラジル日本文化福祉協会で開催され、130名を超える人々が参加した。今年は「在日日系就労者の労働、教育及び起業～入管法改正30周年を迎えて～」をテーマに開催され、田中克之当協会理事長らが日系就労者を取り巻く環境について講演を行った。

日系社会 Topics

在日日系人のための生活相談員セミナー 2020年2月6日(木) 開催決定!

地方自治体の相談窓口で在日日系人のための生活相談業務に携わるスタッフや、多文化共生社会に関心を持つ方等を対象に当協会が毎年開催している「在日日系人のための生活相談員セミナー」。今年度は、2月6日(木)にJICA横浜にて開催する。

今年度は主に、外国につながる児童生徒の教育について、その現状と課題を各方面の関係者から聞く。厚生労働省から最新の施策の説明のほか、児童・生徒を対象とした日本語教育の現場からの報告なども予定している。

詳細・参加申し込みは当協会WEBサイトから。「在日日系人のための生活相談員セミナー」で検索。

福岡・和歌山で県人会世界大会を開催

福岡県人会世界大会が11月6日から9日の4日間、和歌山県人会世界大会が11月24日にそれぞれ、福岡市、和歌山市で開催された。福岡県人会世界大会は1992年の第1回以来3年ごとに開催され、今年が10回目。過去にはアメリカ、ブラジル、カナダ、メキシコでも開催されている。今大会には24の国・地域39の県人会から約350人が集まり、記念式典をはじめ、代表者会議、ビジネス交流会やふるさと訪問、海外の文化・伝統を紹介するフェアなど参加者は多彩なプログラムを楽しんだ。

和歌山県人会世界大会は初めての開催。海外8カ国11団体および国内各地の県人会から約400人が参加した。県民文化会館を会場に記念式典が行われたほか、ミュージシャン宮沢和史さんと大城クラウディアさんが地元高校の吹奏楽部や児童合唱団の子ども達と共にステージに立った。当協会も2イベントを後援した。

記念式典であいさつする仁坂吉伸和歌山県知事

福岡県人会世界大会歓迎レセプションでの鏡びらき

COPANI2019 サンフランシスコで開催

北中南米の日系社会が2年に1度、各国持ち回りで開催している汎アメリカン日系人大会(COPANI)の第20回大会が、9月20～22日の3日間、アメリカ・サンフランシスコで開催された。大会には約250名が参加し、ノーマン・ミネタ元運輸・商務長官が基調講演を行った他、講演やワークショップ、パネルディスカッションを通じてお互いの経験や課題を共有した。

NIKKEI Network NO.43 2019 DEC.
海外日系人協会だより
発行／(公財)海外日系人協会　〒231-0001　神奈川県横浜市中区新港2-3-1JICA横浜2F
TEL:045-211-1780　FAX:045-211-1781
E-mail:info@jadesas.or.jp　URL:www.jadesas.or.jp　編集発行人／椿 秀洋

Health and Life Insurance for foreigners in Japan
短期滞在・日本在住の外国人向け医療・生命保険
- VIVA MED-S (Life and Health coverage) 医療保険(100%保障)+生命保険
- VIVA MED-30 医療保険(30%保障)+生命保険
- 3ヶ月以内の短期滞在者向けの保険
- 外国人留学生向け保険
- 外国人技能実習生・特定技能1号向け保険

For more information, call:
TOLL FREE: 0120-656-684
TEL: 046-265-6685
Visit www.vivavida.net

VIVA VIDA!® Medical Life
少額短期保険会社
(株)ビバビーダメディカルライフ
VIVAVIDA MEDICAL LIFE CO., LTD
関東財務局長(少額短期保険)第51号